

銀座のツバメ ミツバチとカララスと「三つ巴」

ジャーナリスト 清水弟

1平方メートルが403.2万円（2017年度）。国税庁の路線価「日本一」が続く東京・銀座で、ツバメが増えている。ビルの巣箱にミツバチが飛び交い、生ゴミを探すカララスの姿も。都市に息づく生態系の一端をのぞいて見ると……。

買い物客や外国人でにぎわう銀座3丁目、松屋東館の高さ4層ほどの軒下にツバメの巣がある。築26年の古巣。今年7月21日にみると、3羽のひなが巣立ちを控えて羽を広げていた。

6カ所に計8個、営巣確認

「銀座のツバメは今年、巣が6カ所に計8個。昨年、一昨年の2カ所から一気に増えて、2007年のレベルに回復しました」

都市鳥研究会（川内博代表、120人）の幹事、金子凱彦さん（74）は興奮気味だ。

金子さんは、銀座にあった会社に勤務して、昼休みや仕事の合間にツバメの巣を調べてきた。退職後も、日野市の自宅から通って観察を続けている。

1984年から今年までの36年間で、のべ18カ所の巣が栄枯盛衰をたどった。最多だった87年は8カ所に営巣し、うち7カ所から無事にひ

なが巣立った。

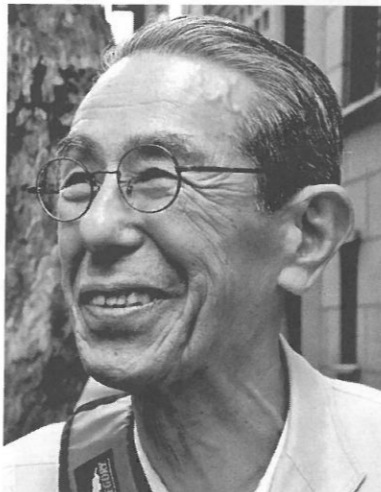
ツバメは天敵のカラスやスズメから卵やひなを守るため、人間に近づき住宅の軒下に巣を作る。

銀座では、一日中出入りできるタクシースの駐車場や人通りが少なくフンなど苦情が来ない裏通りが選ばれる。問題は再開発やビルの建て替えが多いこと。建物が取り壊されたり、シャッター設置で早朝に出入りできなくなったりすると、巣は諦めるしかない。

レストランや料亭、クラブ、バーなど飲食店街もある。ゴミを漁るカララスが増え過ぎれば、ツバメにとってすみにくい街となる。

銀座でひなが巣立ったのは08年が4カ所で、09年3カ所、11年2カ所と減り続けた。

このままではツバメが消えてしまう。金子さ



金子凱彦さん

れている。今や「都市型養蜂」のモデルと評価され、国内外から毎年1000人以上が視察に訪れる。

実は、ツバメがミツバチを捕らえるのは当初から観察された。スズメやハクセキレイも弱ったミツバチを食べるが、ツバメは飛んでいるミツバチを狙う。ツバメが餌を探すのは半径300メートルほど。松屋から約100メートルの紙パルプ会館は絶好の位置にある。数羽のツバメが押しかけることも。

天敵カララスをミツバチが撃退

「最初はコンチクショウメ、と思いましたが」と田中さん。「食べる・食べられる」は仕方ないとしても、女王バチが結婚飛行に飛び立ったところで捕まれば、巣箱一つが終わってしまいます。

NPO法人の養蜂グループリーダー、山本なお子さんは5年前、松屋の巣の下でひな2羽を拾い、駆けつけた田中さんが巣に戻してやった。見方が少し変わった。

今年5〜6月、NHK「ダーウィンが来た」の取材班がミツバチの捕まる瞬間を超高速カメラで撮影した。映像を見た山本さんは「ミツバチをバクバク食べるのではない、ツバメも懸命でした」。田中さんも「ミツバチは突然の方向転換や速度を落として逃げる。ツバメも相当のベテランでないとミツバチを捕らえない。これこそ自然の食物連鎖ですね」。



親子向け見学会でミツバチの働きを説明する山本なお子さん
＝紙パルプ会館屋上

ツバメもミツバチも銀座で健気に生きているのだと納得した。

意外なことに、ツバメにとって天敵のカラスがミツバチに弱い。ミツバチには「黒いものを攻撃する」習性があるため、カララスを見るや群れで追いかける。ミツバチを飼い出して、カララスのいたずらが減ったという話もある。

ツバメとカララスとミツバチは「三つ巴」。まるで「じゃんけん」のグー・チョキ・パーの関係ではないか。

東京都は2001年からカララス対策に乗り出した。箱わなによる捕獲や巣の撤去、ゴミの夜間・早朝収集などを続けた結果、生息数は01年の3万6400羽から18年には8800羽に激減した。銀座でもカララスは減っている。

ミツバチプロジェクトの目標は「多様な生き物と共生するガーデンシティー」だ。ツバメは7月末に南へ去り、ミツバチも9月から休みに入った。銀座のツバメは、みんなの夢や努力に応えて、来年も戻ってくるだろうか。



3羽のひなに餌を運ぶツバメ

NPO法人「銀座ミツバチプロジェクト」（田中淳夫理事長）が、画期的な取り組みを展開して養蜂は急成長した。三つだった巣箱が4カ所計35箱に。ひと箱2〜3万匹として、数十万匹のミツバチが銀座の空を飛びまわる。

4月のサクラ開花で、ミツバチの活動が始まり、トチノキ、マロニエ、5月のユリノキ、6月のシナノキ、夏のエンジュから秋のヤブカラシへ。田中理事長（62）によると、季節の変化や豊かな自然は、集まる蜂蜜の量や色、香りで手に取るように分るとか。

蜂蜜生産量は年1400キログラムと、初年度の150キログラムの十倍近い。

蜂蜜を使った地ビールやお菓子など特産品が生まれ、蜜源となる花を育てるため屋上庭園が広がって育ったサツマイモから芋焼酎まで作ら

*参考図書 金子凱彦著『銀座のツバメ』（2013年、学芸みらい社）

▽田中淳夫著『銀座ミツバチ物語』『銀座ミツバチ物語Part2』（2009、2015年、時事通信社）